



この動物は トド？ イノシシ？ それとも？（毛利家文庫「密局日乗」）

文書館 もんじょかん 動物記



書庫に棲む動物たち

22

怪

みつきよくにちじょう

「密局日乗」の中のふしぎな動物たち

文書館には、萩藩の密用方の日記「密局日乗」が大量に残されています。日記は、密用方や藩内の政治的なうごきを中心に記されていますが、ところどころ、藩内で目撃されたり、噂になった、珍しい、怪奇なできごとが書き留められている場合があります。

そのなかから、動物に関する記事を現代訳で紹介します。

1. 萩越ヶ浜に打ち上げられた怪獣

寛政12年（1800）11月28日、写真のような怪獣が、萩の越ヶ浜海岸に打ち上げられた。その時はもう死んでいたという。

7年以前、奈古浦（現阿武町奈古）にも似たようケモノが打ち上げられたということだ。「せんねんど」というらしい。奈古に打ち上げられたケモノは

潮を吹いて鯨のようだったという。今回は潮は吹かなかった。その形は、

- ・頭から尾までが6尺（約180cm）
- ・身体全体にネズミ色の毛
- ・胴の丸さは臼のよう
- ・皮の厚さは2歩
- ・4つ足がある。長さは1尺（30cm）に満たず幅5寸（約15cm）ほど
- ・毛は「ラツコ」のよう
- ・口ひげは2尺（60cm）ほど
- ・あばら骨はない
- ・目は丸く5寸（15cm）ほど
- ・口の切れ込みは1尺（30cm）
- ・頭の部分は皮や肉がない（他の動物に食べられたか？）

➤ この怪獣の正体は何だったのでしょうか。トドか？ イノシシか？

密局日乗（19日記18）

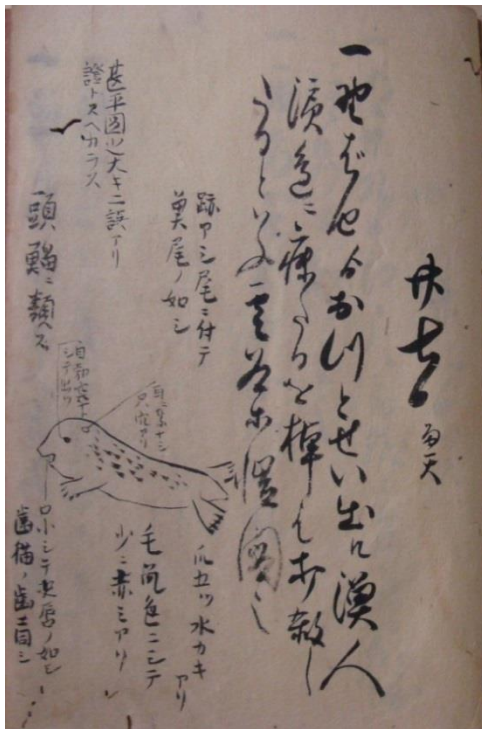


萩藩の密用方は、安永3年（1774）、7代藩主毛利重就の時代に新設された役所です。

過去の文書記録をもとに、歴史や先例などをはじめ、様々な調査事業を担当しました。

「密局日乗」は、密用方の役人が記した役所日記です。明和2年（1765）～慶応元年（1865）年のもの129冊が残されています。

2. 三隅村野波瀬で打ち殺された「おっとせい」



寛政3年（1791）3月27日、前大津宰判三隅村野波瀬（現在の長門市三隅）の海岸に、「おっとせい」が出現した。ところが、付近の漁民たちが、浜辺で寝ていた「おっとせい」を棒で打ち殺したという。

絵は、藩御用絵師が描いたものを密用方役人の長谷川甚平が書き写したものである。

- ▶ 「おっとせい」とありますが、記された形状からはアザラシだったようです。なぜ打ち殺されてしまったのか、かわいそうなアザラシ君・・・

3. コウイカから出現した阿弥陀仏

文政4年（1821）2月17、18日頃、萩の漁人町の者がコウイカを買ったところ、口の中が光ったの

で、取り出してみると、イカの体内から3歩（約1cm）ほどの黄金の阿弥陀仏が出てきた。

噂を聞きつけたたくさんの人々が阿弥陀仏を拝みに来るようになった。

その後、見島にもって帰り、どこかの寺に納めたということだ。

- ▶ 黄金仏はいまどこに・・・

4. 見島で捕らえられたブッポウソウ

文政12年（1829）4月、見島で異鳥が捕らえられ、26日、萩城の御鳥小屋へ運ばれてきた。

異鳥の大きさはヤマバトぐらい、頭は黒く、羽根は金色、胸は紺青、クチバシは赤く、目はハヤブサのよう、アシは薄紅、ツメは黒く、鳴き声は「時鳥」のようである。ケラやトンボ、セミなどを食べる。この鳥のことを、高野山では「仏法僧」、吉野では「三宝鳥（サンポウチヨウ）」という。

結局、「仏法僧（ブッポウソウ）」と名付けたということだ。

5. 上関の人面牛身

文政2年（1818）、上関の民家で、牛が人の顔をした牛（「人面牛身」）を産んだという。

その牛が言うには、「私は生まれて3日になる。名前を『件（くだん）』と名付けよ。この異形を恐れて殺してはいけない。自分が生まれたからは、7年間は豊年になり、8年目に戦が起こるだろう」。

この噂が真実かどうかはわからない。

- ▶ 人面牛身の「件（くだん）」の伝承は全国各地にあるようです。



○オットセイ



○コウイカ



○仏法僧